

# 反改憲運動

## 通信 第8期

2012.12.5

No.

1部 200円

13

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町 1-21-7 静和ビル 2A  
淡路町事務所気付 Tel. & Fax. : 03-3254-5460  
E-Mail : han-kaiken-editor@alt-movements.org  
Website : <http://www.alt-movements.org/han-kaiken/>  
年間定期購読料 4,000円 (2012. 6~2013. 5)  
郵便振替 00190-7-11558 「反改憲」運動情報通信

## 年末総選挙と改憲派の攻勢——あらためて憲法改悪阻止の運動を

12月4日公示、12月16日投票で総選挙が行われる。2009年の8月総選挙で大勝した民主党政権の3年間は、まさに無残としか言いようがない。鳩山、菅、野田と約1年間でめまぐるしく首相が交代し、その度ごとに激しい党内抗争を経て、政権の性格は右へ右へとなびき、ついに政策的には自民党とまったく変わらない右派政権に純化した。沖縄の人々の「基地県外移設」の闘いには普天間固定化とオスプレイ配備、そして日米の「動的協力」という名の米軍アジア太平洋戦略への従属の一体化による自衛隊の南西諸島配備が回答だった。財政危機には社会保障切り捨てと消費増税で応えた。東日本大震災・福島原発事故の大惨事の被災者に対する生活再建の支援は滞り、補償は切り縮め、かつてない反原発運動への回答は再稼働の強行と、建設中の原発工事の再開だった。これでは党が四分五裂し、今回の総選挙で政権を失う結果となるのも当然だ。

民主党的大敗北必至の状況で、勢いづいているのは改憲を至上命題とする極右政治家・安倍晋三を再び総裁の座に据えた自民党であり、自民・民主に対抗する「第3極」のキャッチフレーズの下に合流した、核武装論者の石原慎太郎前東京都知事と橋下徹大阪市長という極右デマゴグを「ツートップ」とする日本維新の会である。民主党崩壊の灰の中から、憲法改悪のプロセスが急ピッチで進んでいる。「竹島」「尖閣」の「領土ナショナリズム」の排外主義キャンペーンがそれを加速している。安倍は、「国防軍」の創設を前面に押し出しながら悲願の「憲法改正」を事あるごとに訴えている。

ここで自民党の「日本国憲法改正草案」の特徴をもう一度見ておこう。第1は「緊急事態条項」の導入である。東日本大震災・福島原発事故以来、「有効でスピード感のある対策」が取られなかったのは、現憲法に「緊急・非常事態対策」がないことに根本の原因があるとの言説がふりまかれた。ここから「緊急事態政令」によって政府が国民の自由と権利を「立憲

的」に奪う条項が必要だとの主張が行われ、「戒厳事態」発令を可能とする条項に盛り込まれることになった。

第2は言うまでもなく「国防軍」の明記である。「国防軍」は「国際社会の平和と安全を確保する」ためとして海外での戦争にも使用され、また「国民の生命若しくは自由を守るための活動」すなわち、災害時だけではなく「治安出動」をも想定している。

第3に天皇を「象徴」とであるとともに「元首」と規定している。自民党案の憲法前文では「国民統合の象徴である天皇を戴く国家」という規定がなされ、内閣による天皇への「助言」という言葉が「進言」に変えられていることも、天皇を国民の上に立つ存在として特権化・神聖化していることを示している。これと合わせて「日章旗・君が代」は「国旗・国歌」と明示され「尊重義務」が課されている。

自民党の改憲案が、たんに憲法の「平和主義」の否定にとどまらず国民主権や基本的人権の否定にまで貫かれている事実注意到しよう。自民党改憲案の主語になっているのは「国家」であって、国民ではない。それは憲法の「尊重義務」が「国民」全般に課され、かつ天皇は「憲法尊重義務」から外されていること、自由や権利の行使には「公共の秩序」「公益」に反しないという制限が課されていること、権利行使の主体としての「個人」は実質的に否定され、憲法24条の「婚姻は両性の合意のみに基づいて」の前に家族条項が導入され、かつ「合意のみ」から「のみ」が外されるなど細部まで周到なチェックが入っていることにも明らかだ。

「維新の会」も公約の中に「自主憲法」を盛り込んだ。民主党や、にわか作りの「脱原発新党」＝「未来の党」にも改憲派がうごめいており、改憲派である野田首相自らも「集団的自衛権行使」合憲論に踏み込みながら、状況をうかがっている。こうした動きに注意を払いながら、憲法改悪反対の運動をとともに作り出そう。(国富建治／事務局)

8日間のカザ攻撃が終わった。作戦の責任者だったバラク国防相が、何と停戦後に電撃的政界引退表明。私たちの抗議文は、まだイスラエルに着いてもない。▶ほぼ同時に、年明けの議会選挙向けのリストを決める与党リクードの党内選挙で、入植地建設猛烈推進・和平交渉絶対反対の右派がソロリ上位に並んだ。戦争するたびどんどん右傾斜するパターンで、かつての右が左に、中道は極左に。バラクも「中道派でバランスの取れた政治家」だ

憲法改悪反対

った。こんな状態の政治を放り出し、やったことの責任を問われる時間と与えずに逃げていく政治家たち。うー、悲しいくらいこの国も同じ。▶12月16日の衆院選と都知事選の結果も怖いし、年明け1月22日のイスラエル議会選挙の結果も怖い。外の世界から「元気をもらい」よりも、「日本と似ているダメな国」をウォッチすることが重要だと思ってきた私ではあるが、こんなに悲観的になるだけなら、少し考え直したほうがいいのかも。(た)

## 報告◎ガザ攻撃を止めろ! 東京で緊急抗議行動(11月18日)と緊急集会(11月25日)

11月14日にイスラエル軍が空爆と艦砲射撃でガザ地区への攻撃を開始した。アメリカ大統領選挙後でその就任式の前、そしてイスラエル総選挙の前というタイミングでのガザ攻撃であることから、4年前にイスラエルが地上部隊も投入して1400人以上を殺害したガザ攻撃(2008年12月27日に開始され23日間続いた)が直ちに思い出された。

東京では有志の呼びかけで11月18日(日)に駐日イスラエル大使館への緊急抗議行動が取り組まれた。日本語でのアピールやシュプレヒコールだけでなく、英語・アラビア語・ヘブライ語でのコールも行われた。約80分の行動で参加者は70名ほど。以前は抗議文などは大使館入り口脇の新聞受け(!)に投函していたが、最近はその新聞受けそのものが撤去されている。そのため申し入れ書を参加者めいめいが一言メッセージを添えて後日郵送することとした。

この日の行動では、集合場所の地下鉄改札口から大使館入り口に移動する途中の路上で制服警官が通行を阻止し、トラメガを使うな、シュプレヒコールをやるな、歩道から出るな等のまったく不当な介入をおこなってきた。これを参加者全員の強い抗議で押し返して大使館前での行動を開始する、という経過があった。こうした警察側の不当な介入は、これまでにはあまり記憶にないが、しかし改めて、いつでもこうした警察の不当な介入はあり得るのだということは確認してお

くべきだと痛感した。

そして、この抗議行動を呼びかけた人々が中心となって、その次の日曜日(25日)に「停戦しても占領とガザ封鎖は続いている／STOP!! ガザ攻撃 11・25緊急集会」が文京区民センターで行われた。この集会は実行委員会形式で、発言者は、伊藤和子さん(弁護士／ヒューマンライツ・ナウ事務局長)、鵜飼哲さん(一橋大学教員)、田原牧さん(「東京新聞」デスク)、奈良本英佑さん(「アル・ジスルー日本とパレスチナを結ぶ」代表)の4名。参加者は約70名だった。

実行委員会で玄葉外務大臣宛、そしてイスラエルのネタニヤフ首相とバラク国防相宛の申し入れ書を作成し、集会の最後に参加者に署名を呼びかけてその場で集約、これを後日実行委が送付した。英文の申し入れ書にローマ字で署名してもらうというのは、少し「目新しい」取り組みだったかもしれない。

結果的には21日夜に停戦合意が実現したが、この集会のタイトルにあるように「停戦しても占領とガザ封鎖は続いている」。どうしても毎回、少人数で準備して緊急行動「だけ」は何とかやる、という形になってしまう。もう少し継続的な取り組みができないかと思う一方で、毎回多少は工夫もこなしている、とも思う。可能な限りの努力を続けたい。

(岡田剛士／ミーダーン〈パレスチナ・対話のための広場〉)

## 12・23 戦後国家(象徴天皇制)の正体

『天皇誕生日』を、天皇制の戦争・戦後責任を問いつける日に」ということで、反天皇制運動連絡会(反天連)では、アキヒトの即位以降、毎年12月23日に集会を行なっている。もっとも、「戦争・戦後責任」というテーマに限定しているのではなく、その年の天皇制状況を総括的に討論するという位置づけだ。さらにここ数年は、直接的に現在の天皇制を問題にしないで(もちろんまったく無関係ではない)、自分たちの問題関心でテーマ設定をした回もある。

昨年は「原発ファシズム・天皇制」というテーマで議論をした。この時の話題のひとつに、アメリカによる原爆投下から「原子力平和利用」という流れ、つまりは戦後「冷戦」における日本の核安保体制への組み込みといったあたりのことがあった。実は反天連では、この間系統的に「占領期」に関する文献をいろいろ内部で読んでいる。ひと言でいえば、戦後日本国家がアメリカによっていかに作られていったか、という問題関心からである。言うまでもなくそれは、戦前の「神権主義的天皇制」国家が、象徴天皇制国家へと変容していく過程そのものでもある。そしてそこでは、昭和天皇自身が、その重要なアクターとして、能動的に動き回ったことも知られている。それで今年の集会は、こうした問題に正面から焦点をあてて議論してみることにした。

孫崎享の『戦後史の正体』という本がある。よく売られているらしい。私も読んでみたが、なんの論証もなく(特に後半)、

ときの政権担当者を、陰謀史観的なもの言いもしながら「対米従属派／対米自立派」とに振り分けていく手つきには相当な違和感を覚えた。けれども、戦後日本国家の出発点としてあった「占領」が、いかに現在も続いているものであるのか。戦後日本国家とは「アメリカ製」であるという、いまや多くの人が感じている「不都合な真実」を明らかにしているモチーフだけには共感できた(もちろん、それは権力の非主流的なある一派の立場を代表しているだけだろうし、その議論の説得的な部分は、豊下楯彦や進藤栄一らの先行研究に依拠したものであるわけだが)。

日本の戦後とは何か。戦後を克服するためには、おしつけ憲法を「改正」しなければならないと主張しながら、安保を基軸とした日米同盟の深化を積極的に主張し続ける醜態さがある。だが、それ自体が逆説的に、戦後がつくりだしたものの多様性を示しているのだともいえるだろう。そういったことも含めて、議論していきたいと考える。

当日の発言者は、ピーブルズ・プラン研究所の武藤一羊さんと青山学院大学教員(日本文学)の佐藤泉さん。これにいつもどおり、反天連の天野恵一を加えて、議論していく予定である。ぜひご参加下さい。

(北野誉／反天皇制運動連絡会)



# Nuclear Free Now 12/15~16へ

昨年東京電力の福島第一原発の事故で、私たちは原子力が制御不能であることを身をもって学びました。囲碁、多くの人々が「原発のない世界」を求める声を上げ、その結果、政府は新エネルギー戦略で「原発ゼロ」をめざす方針を決定しました。しかしこれに対して、政財界からさまざまな抵抗が起きています。原発のない社会を実現するためには、市民の一人ひとりの行動が必要です。そして、さまざまな立場の人たちが連携して行動すれば、その実現は可能です。私たちの手で、暮らしや経済や政治を変え、再生可能なエネルギーを基軸とした「原発のない世界」を実現していきたいと思ひます。

来る12月15~17日、日本政府と国際原子力機関(IAEA)は、「原子力安全福島閣僚会議」を福島県郡山市で開きます。IAEAは福島県内に除染や放射線影響に関する研究拠点を作ると言われています。この国際会議が、原子力の安全という名の下で、原子力産業の延命をはかったり、福島原発事故の被災者の健康や権利を軽んじるような議論の場になってはならないと私たちは考えます。

世界各国のリーダーや専門家が集まるこの機会に、私たちは市民の立場から、原発事故の被災者の方々と共に、世界に向けて原発事故の実態と教訓を語り、「原発のない世界」へのメッセージを発信していきたいと思ひます。

具体的には、日比谷で開催する「脱原発世界会議2」「脱原発世界大行進2」「市民ひろば」「フクシマ・アクション・プ

ロジェクト」などの企画を同時開催します。「脱原発」に対する国内外の市民の声を結集すると共に、互いの経験に学び合い、大切な一人一人の「声」を表明できる参加者のイベントとする計画です。

「脱原発世界会議2」は、12月15日(土)、16日(日)に日比谷の「東商ホール」「イイノカンフェレンスセンター」の2つの会場を利用して行われます。会議は3つのテーマ(A:原子力を規制する。B:チェルノブイリに学ぶ。C:脱原発社会の作り方)を軸に、2日間で合計9つのセッションが開催されます。国内外から多数のゲストが集まります。

「脱原発世界会議2」と並行して、日比谷公園の広場部分を活用して2日間「市民のひろば」という名称で複合イベントを行います。小音楽堂とその隣の噴水エリアを組み合わせたものです。「ひろば」にはステージを一つ設置し、小音楽堂のステージとあわせて、計2つのステージがつくれます。そのステージでは、アーティストの演奏や、さまざまなトークショーが行われます。市民が集まって、脱原発と新しいエネルギー・新しい社会について語り合います。これらステージの他、たくさんの「出店」と「ワークショップテント」を設置します。

\*「脱原発世界会議2」、「フクシマ・アクション・プロジェクト市民会議」(12月16日)以外のNuclear Free Nowの行事は、参加無料です。(小鍋/ピースボート)

## 報告◎「放射能汚染下で働き、暮らすこと」 講演会・相談会@いわきを開催

11月25日、標記イベントがいわき市の温泉利用型健康増進施設「ゆったり館」で開催された。主催する実行委員会は被ばく労働を考えるネットワークほか呼びかけ人で構成され、当日は東京、福島ほか各地から50人を超える有志がスタッフとしてその開催を担った。「労働相談」「健康相談」「生活相談」の3つのブースで、午前11時から相談会が開始された。

労働相談では、環境省の除染事業に従事する青森出身の労働者5人が訪れ、実情を話した。大手ゼネコンの三次下請けに雇用され除染特別地域で2ヶ月働いたが、危険手当は払われておらず、健康診断や除染講習も自費、当初はマスクの支給もなかった。労働相談担当スタッフは、このかん楢葉町先行除染での危険手当ピンハネ問題争議を手がけて全面勝利を勝ち取ったメンバー。争議化を含め今後の対応の相談を行った。このほか、事前に5件の労働相談の問い合わせがあった。

健康相談では被曝に関する相談はなかったが、鍼灸治療には4名が訪れた。生活相談では、浪江から避難して仮設住宅に住んでいる方が訪れ、国の安全基準に対する怒りを生活相談担当スタッフにぶつけていた。甘い安全基準は汚染の少ないところには関係なく、事実上、原発周辺被災地にだけ適用される。我々は差別されているのではないかと。仮設での避難生活の中で、原発事故と国・東電の対応への怒りを訴える場所がない苦しみを、スタッフは改めて実感することになった。

午後1時半からは、「労働者被曝と健康影響～健康を脅かされる被曝労働者～」と題する阪南中央病院・村田三郎先生の講演会が、同じ会場で行われた。村田先生は原爆被爆者や被曝労働者の健康診断や診療、実態調査など、労働者や住民の被曝問題に長年関わってこられた方。講演では豊富なデータと資料が提供され、100mSv以下の被曝でも健康影響があることを報告した研究データや、82年に行った福島原発の下請労働者調査で、原発労働者と原爆被爆者の疾病には強い相関が見いだされたことなど、はじめて知る情報も多かった。村田先生は被曝労働者を巡る制度的問題も指摘しつつ、長期的な線量管理と健康診断の必要性を強調した。

そのほか、会場には福島老朽原発を考える会(フクロウの会)が行った放射能測定プロジェクトで、被災地の子供たちの尿をフランスの市民測定所ACROで検査した結果がパネルで紹介された。また、敦賀から車を運転して参加された斉藤征二さんは、福島市・飯舘村を訪問した際の写真を紹介してくれた。手の空いたスタッフは、湯本の旅館外に繰り出し情宣活動を行った。

このイベントへの参加者はスタッフを含め160人。相談件数自体はそれほど多くなかったが、今後の福島での相談活動を積み重ねる貴重な第一歩を記した。

(なすび/被ばく労働を考えるネットワーク)

# 総選挙直後に改憲問題を討論しよう!

12月18日(火)、『『改憲攻撃の今』を撃て! 戦争と治安  
管理を許さない! 12・18北部討論集会』を開催する。主催  
は、「有事立法・治安弾圧を許すな! 北部集会実行委員会」。  
時間は、18:30から。場所は、豊島勤労福祉会館。メイン  
の講師は、筑紫建彦さん(憲法を生かす会)。講演テーマは、  
「憲法問題を考える視座」。

安倍自民党は、政権公約で、自衛隊の国防軍化を打ち出し  
た。私たちが憲法問題を中心に据えた集会を企画したのは  
10月。残念ながら、非常にタイムリーな集会になってしま  
った。とはいえ、企画段階から今日の事態につながる危機感  
を私たちが持っていたことも事実である。消費税増税に関す  
る自公民三党同意が成立した時点から、私たちは、2013年  
はいよいよ改憲が具体的な政治日程に浮上してくるのではな  
いかと感じていたからだ。

一方、東京北部の各地域で様々な潮流の改憲反対の活動は  
存在するものの、本格的な改憲の動きを迎え撃つ側の陣形は、  
整っていない。何とか、大きなうねりを作り出す糸口を見い  
だせないものか。そうした運動状況への危機感も、私たちが  
今回の集会を企画した理由の一つである。

もう一点、私たちには問題意識がある。私たちは、共謀罪  
制定策動など治安弾圧の強化に反対することと、国民保護法  
など有事立法に反対する取り組みをしてきた。直近では、各

地の暴力団排除条例制定に反対する取り組みや練馬駐屯地を  
出発点とした「災害対処」を名目とした陸上自衛隊の「23区  
移動展開訓練」に反対する取り組みを行ってきた。そうした  
取り組みをしてきた私たちから現状を見ると、どんどん実質  
的な改憲状況が作られつつあるように見える。今後の展開に  
関しても、自民党の政権公約にも盛り込まれている組織犯罪  
対策の強化や国家安全保障法の制定などが、明文改憲に先立  
って、進行するおそれがある。安倍のフライングで、自民と  
の違いを見せるために国防軍化に民主党も非難を始め、公明  
党も苦言を呈し出しており、簡単には明文改憲は進まないか  
もしれない。しかし、サイバーテロ対策などの推進、集团的  
自衛権行使の合法化など、自民、民主のいずれが比較第一党  
となったとしても、新政権の下で治安強化と戦争国家  
化が進められることは必至だ。

18日は、総選挙直後である。新政権の姿も見えつつある  
だろう。本集会は、総選挙総括・新政権についての評価をめ  
ぐる討論の場になる。それとともに、実質的改憲とも言える  
治安強化、自衛隊の機能・権限の拡大に抗する運動と改  
憲反対の運動がリンクして、改憲攻撃を迎え撃つ論理と運動  
のあり方を論議する場にしていきたい。北部地域以外からも、  
興味のある方は是非とも参加していただきたい。

(池田五律/有事立法・治安弾圧を許すな北部実行委員会)

◆原発を  
読む◆

## 『福島原発事故と女たち——出会いをつなぐ』

近藤和子/大橋由香子編 梨の木舎刊 1600円+税

日本列島は火山国だし、海のなかに移動させられた島国で、  
災害の起こる頻度が高い。そこで重要なのがその時々記録  
だ。災害の様相は毎度違う顔を見せるだろう。しかし学ぶ教  
科書は記録しかない。だからこんどのような大災害のあとに  
は、たくさんの記録を残して欲しいものだ。似たようなもの  
がいくらあっても過ぎるということはないと思う。今は電  
脳時代で、情報伝達にどれだけ威力を発揮したことか。しかし  
時間の壁を突き抜けて後の人びとに届くのは案外書物ではな  
いかと思う。この書も貴重な証言集のひとつだ。

一人一人の体験を辿りながら、「自分だったら、この場合に  
どうしよう」という問いを己に始終かけつづけた。逃げる  
のか、逃げないのか。子どものことをどう考えるのか。親を  
どうするのか。犬をどうするのか。どこに行けるのか。いつ  
までなのか……。際限なく答えの出ない疑問が湧く。そうし  
ているうちに、地震や津波はほんとに怖い、人の力や智慧で  
は到底かなわない。ただでもっと怖いのは「原発事故」でこ  
れは別格の災害だ。チェルノブイリ事故以外に、学ぶ教科書  
もない、目に見えない放射能に、期限もわからず追われるだ  
けという事実のうちひしがれる思いがした。だから、辛くとも、  
答えがなくとも、一人一人の体験を書いておいてほしいと、  
重ねて思った。そして、それが逃げる教科書として役に  
立つのではなく、二度と同じことが起こらないようにするた  
めに、「原発 全廃」を実現しなければならないし、そのた

めの教科書になってほしいと切実に願う。

読み進むと、編者の二人の文章が出てくる。大橋由香子さ  
んの指摘の数々にはうん、と考えこまれて、マイッタ。  
普段は誤魔化してやりすごしている卑怯な自分の姿勢を、背  
中からドンッと叩かれたように感じた。特に「障害者」とい  
う言葉の持つ暴力性。放射能の影響で「障害」をもつ子ども  
がうまれたらどうしよう! 私はおヨメにゆけないの? 赤  
ちゃんを産んではいけないの? 現在「障害者」と呼ばれて  
いる人は「ダメ」なの? ほんとに辛くて、何度も本から目を  
逸らして考えこんでしまった。

カギカッコつきの「オンナたち」が反原発で大きな行動を  
していることは確かだ。そのことをフェミニズムの観点から  
見ると、いつのまにか、「オンナ」の役割みたいな括られ方が  
見えてくる。お母さんが子どもを守る役で逃げている。離婚  
が増えている。もうさまざまな問題が浮き上がってきて、自  
分が今まで曖昧にしてきたことに照明があてられてしまった。  
フクシマの事故が示したのは、「原発」の存在を許してはなら  
ない、だけでなく、自分の意識のご都合主義的な部分を許し  
てはならないと教えられた。

一方で、近藤和子さんの「オンナたち」のパワーへの言及、  
過去の数値入りには励まされるものがある。みんなよくやっ  
てきているのだ。寒くなったけれど、やっぱりデモにでかけ  
なくちゃ。  
(梶川凉子/事務局)



# 反改憲ニュースクリップ

## 2012年11月18日～11月30日

### 自民党が 自衛隊「国防軍」化を公約

【11月20日】〈核抑止論〉日本維新の会の石原慎太郎代表が「核を持っていないと発言権が圧倒的にない。北朝鮮は核開発しているから、米国もハラハラする」「日本は核兵器に関するシミュレーションぐらいやったらいい。これも一つの抑止力になる。持つ、持たないは先の話だ」と発言。

【11月21日】〈自民党〉自民党が次期衆院選の政権公約を発表。憲法については、新憲法草案を提示し、(1)日本国の元首であり、国および国民統合の象徴である天皇陛下を戴く国家であることを規定、(2)国旗は日章旗、国歌は君が代とする、(3)自衛隊を国防軍と位置づけることを規定、(4)武力攻撃や大規模自然災害に対応した緊急事態条項を新設、(5)家族の尊重に関する規定を新設、(6)改憲の発議要件を衆参それぞれ過半数に緩和、などとした。外交・安保については、集団的自衛権の行使を可能とし、国家安全保障基本法を制定、自衛隊の人員・装備・予算を拡充などを主張。エネルギー政策については「10年以内には持続可能な電源構成のベストミックスを確立」として、事実上の原発推進。

【11月22日】〈集団的自衛権〉森本敏防衛相が、集団的自衛権の行使を可能にするとした自民党の衆院選政権公約について「この問題を議論することは、立法府の役割として当然だ」と述べる。

【11月23日】〈国防軍〉公明党の山口那津男代表は、自衛隊を「国防軍」と改憲で規定するとの自民党の安倍晋三総裁の考えについて、「国民から信頼される自衛隊というのが定着している」と否定的な考えを示す。〈GDP 1%枠〉日本維新の会の橋下徹代表代行が「まずやらなければいけないのは、防衛費の国内総生産1%枠という、くだらない発想をなくす」とことと主張。

【11月24日】〈国防軍〉野田佳彦首相が、自衛隊「国防軍」規定について、「国の形に関わることなので、国民的な議論を経ないといけない」と発言。

【11月25日】〈国防軍〉野田首相が、自衛隊「国防軍」規定について、「名前を変えて中身が変わるのか。大陸間弾道弾を飛ばすような組織にするのか。意味が分からない」と述べる。他方、自民党の石破茂幹事長は「名称のいかんを問わず、国の独立を守る組織が憲法に書かれるのは当たり前。そのことを、国防軍という名前がけしからんなぞという、言いがかりに近いことを言って、これを争点にしようというのは、健全な考え方では断じてない」と野田首相を批判。〈在日米軍〉米海軍第7艦隊司令部と在日米海軍司令部が、所属の米軍人

に午後10時～翌午前8時の飲酒を禁じる夜間飲酒制限令を発令。場所を限定していないため自宅での飲酒も禁止される。

【11月26日】〈自衛権〉前原誠司国家戦略担当相が「(戦力不保持を定めた)9条2項を子どもが読めば、自衛隊は憲法違反だと思ってしまう。自衛権を明記し、平和主義を前提として2項は変えるべきだ」との考えを示す。

【11月27日】〈民主党〉民主党が次期衆院選のマニフェストを発表。憲法については、「憲法を活かし、国民主権・基本的人権の尊重・平和主義を徹底」とわずか1文触れたのみ。外交・安保については、「専守防衛の原則に立ち、動的防衛力、南西重視など、防衛大綱にもとづいて着実に防衛力を整備」「日米同盟の深化」「米軍再編日米合意の着実な実施」「核兵器のない世界」の実現に向けて努力などを明記。環太平洋パートナーシップ協定(TPP)については交渉参加を明記せず。エネルギー政策については、「結論先送りのなし崩し的な原発維持も、実現可能性を無視した即時原発ゼロも、同じように無責任」とし、「2030年代の原発稼働ゼロ」「核燃料サイクル政策の見直し」などを主張。〈海洋戦略〉政府の総合海洋政策本部(本部長・野田首相)の有識者会議が次期海洋基本計画の策定に向けた意見書をまとめ、野田首相に提出。領海や排他的経済水域(EEZ)の保全のため、海上保安庁や海上自衛隊の体制を強化する必要性を指摘した。〈在日米軍〉森本防衛相が、在沖・在日米軍の兵士によると見られる犯罪が頻発していることについて「先週末ぐらいから、いろいろな小さな事件が起きた」と発言。〈原発政策〉原子力委員会が、高レベル放射性廃棄物の処分方法について、地下深くに半永久的に埋める最終処分(地層処分)計画を見直し、将来的に廃棄物を地下から取り出せる「暫定保管」へ転換を図るよう政府に求める提言案を示す。〈第3極〉滋賀県の嘉田由紀子知事を党首とする「日本未来の党」が発足。「卒原発」を掲げる。

【11月28日】〈原発政策〉原子力規制委員会の田中俊一委員長が、電源開発(Jパワー)大間原発の断層調査を行う意向を示唆。

【11月29日】〈維新の会〉日本維新の会が衆院選の公約「骨太2013-2016」を発表。基本方針として「自主憲法の制定」を掲げた。統治機構改革のための改憲の実例として、首相公選制、参議院廃止、条例の上書き権→改正を実現するために96条を改正することを挙げた。外交・安保については、「日米同盟の深化」「集団的自衛権の行使や領海統治などを定める国家安全保障基本法の整備」「相互依存戦略の観点から日本の核燃料サイクル技術・武器技術の位置付けを検討」などと主張。エネルギー政策については、「既設の原子炉による原子力発電は2030年代までにフェードアウト」とした。TPPについては、「交渉参加」としつつ、「国益に反する場合は反対」と併記した。〈都知事選〉東京都知事選挙が告示される。主要候補は松沢成文(元神奈川知事)、笹川亮(元自民党総務会長)、宇都宮健児(元日弁連会長)、猪瀬直樹(元東京都副知事)ら。〈オスプレイ〉在日米軍のアンジェラ司令官が、沖縄に配備した垂直離着陸輸送機MV-22「オスプレイ」本格運用開始時期について、12月上旬になるとの見通しを示す。

事務局  
から～

会費の納入状況の確認について 年会費を納入済みの方には原則として、払込用紙を同封していません。また封筒の宛名ラベルのお名前の下に印「\*」がありますのでご確認ください。ただし、入金後このようにラベルに反映されるまでに最大で2か月程度を要します。ご入金後もしばらく払込用紙が同封されることがありますが、どうかご容赦ください。●次号(14号)は12月19日発送予定です。

# 12 私も一言 164

高木久仁子 (高木仁三郎市民科学基金事務局長)

福島原発事故から1年9か月、大多数の市民の脱原発の声を無視して、推進勢力はすぐにはゼロにできないと居直りの様相です。

事故前は“原発は電力の安定供給と地球温暖化の防止に貢献、万一事故が発生しても原子炉を止める、冷やす、放射性物質を閉じ込める5重の壁があるから大丈夫、原発周辺の放射線量は自然界よりずっと少ない”、右肩上がりのエネルギー需要を想定し核燃料サイクル政策により再処理は堅持、原

発14基増設が政府・電力会社の言でした。過酷事故は禁句、核燃料サイクル政策の破たんは無視、放射性廃棄物、原発老朽化等、厄介な問題は先送り、結果がこの過酷事故でした。原発事故対策は皆無だったことも世界中に明らかになりました。

東京電力は、福島第一原発4基の廃炉を決定しましたが、事故炉をどうするか、溶けた核燃料をどうするか問題は山積です。いまだ冷却に手一杯、事故解析も未だ、防災対策もないまま、電気が足りないと大飯原発3、4号を再稼働、大間原発建設再開と、事故の教訓はどこへやら。不可思議なことに、この国では財界、政界、官僚とトップに行けば行くほど親原発色に染まっていくようです。

ひごろ住民投票や国民投票嫌悪、民意軽視の議員諸氏も選挙になれば「国民の皆様」に変身です。12月16日は投票日。白けずに、厳しい目でしかと候補者を見分け、国会へ一人でも多くの脱原発議員を送り、投票日以降もその活動をフォロー・監視し続けようではありませんか。

## 集会・行動情報 12/8 ~ 12/18

### ▶ 12/8 (土) 2012もんじゅを廃炉へ！全国集会◆

11:00/現地抗議集会：敦賀市白木海岸◆13:30/もんじゅ廃炉を求める全国集会：きらめき港館◆同実行委員会

■第28回人権と報道を考えるシンポジウム「憲法から見た実名報道」◆パネリスト：飯島滋明、奥田喜道、長峯俊彦、司会：浅野健一◆13:30◆東京学院3階教室（JR総武線水道橋駅下車）◆人権と報道連絡会

▶ 12/9 (日) 全国スピーキングツアー 袴田事件～袴田ひで子さんが語る「負けてたまるか」逮捕から46年◆14:00◆日大法学部3号館4階350講堂（JR総武線水道橋駅下車）◆公益社団法人アムネスティ・インターナショナル日本

■ハッ場ダム住民訴訟8周年報告集会 ねつ造してまでハッ場ダム？～どうなる!! 利根川水系河川整備計画◆参加費：500円◆講演：五十嵐敬喜、関良基◆13:15◆全水道会館4階大会議室（JR総武線水道橋駅下車）◆ハッ場ダムをストップさせる市民連絡会など

■『南京大虐殺否定論13のウソ』の13年◆参加費500円◆講師：笠原十九司、井上久司、渡辺春己◆13:30開場◆文京区民センター2A（都営地下鉄春日駅下車）◆南京への道・史実を守る会

■〈アルジスル公開講座〉シリアで何が起きているのか◆参加費800円◆講師：高岡豊◆14:30開場◆大東文化会館K301（東武東上線東武練馬駅北口下車）主催：アル・ジスルー日本とパレスチナを結ぶ、共催：アラビア語研究会

▶ 12/10 (月) アムネスティ・ライティングマラソン2012/キャンドルイベント「シャイン・ア・ライト」◆17:00～◆会場：上智大学（メイン会場）・四谷駅前広場（JR中央線四谷駅下車）◆アムネスティ・インターナショナル日本

▶ 12/11 (火) 市民と労働者の力で弾圧をはね返そう～デッチ上げ「免状不実記載」を許すな！◆18:30◆

横浜市開港記念会館6号会議室（みなとみらい線日本大通り駅下車）◆学校事務職員労働組合神奈川（がくろう神奈川）

▶ 12/14 (金) 広瀬隆さん講演会「IAEAとICRP 国際原子力マフィアによる被曝強制的歴史と福島県内の深刻な被曝の現実」◆資料代：500円◆18:00◆郡山市労働福祉会館1階大ホール（郡山市虎丸町7-7）◆主催：脱原発福島ネットワーク、ハイロアクション福島原発40年実行委員会

▶ 12/15 (土) 脱原発をめざす首長会議・勉強会◆13:00◆郡山勤労福祉会館

■さようなら原発世界大集会◆12:00開場/14:30デモ出発/日比谷野外音楽堂（東京メトロ霞が関駅、都営地下鉄三田線内幸町駅下車）/さようなら原発1000万人署名市民の会、首都圏反原発連合

▶ 12/15 (土) ~ 16 (日) 脱原発世界会議2◆テーマ①原子力を規制する②IAEAと放射線被ばく③脱原発社会をつくる◆東商ホール&イイノカンファレンスセンター◆Nuclear Free Now実行委員会（※本文3ページ参照）

▶ 12/16 (日) フクシマ・アクション・プロジェクト市民集会◆13:00◆郡山女子大◆フクシマ・アクション・プロジェクト

■南京大虐殺75周年 証言を聞く2012年東京集会—日本はアジアとどう向き合ってきたか◆会場費1000円◆映画「南京—引き裂かれた記憶」、証言：夏淑琴さん、講演：田中宏◆13:00開場◆カメラアプラザ（JR総武線亀戸駅北口地下車）◆南京東京証言集会実行委員会

▶ 12/18 (火) 「改憲攻撃の今」を撃て！—戦争と治安を許さない—12・18北部討論集会◆資料代500円◆講演：筑紫建彦、提起：石橋新一、池田五律◆18:30◆豊島勤労福祉会館4階第2会議室（池袋駅西口・メトロポリタン口下車）◆有事立法・治安弾圧を許すな北部集会実行委員会